

発達障がい児等支援に係るアンケート調査結果概要【保護者】

1 アンケートの実施状況について

- ・発達障がい児等家族団体（JDDnet 加盟団体含め 11 団体）あて調査依頼文を送付。調査依頼文には、URL と QR コードを記載し、インターネットから回答する方法を採った。
- ・アンケートは 43 問から構成され、内容は①発達障がい児の受診や診断待機の状況に係ること、②本人・保護者等の支援ニーズに係ることの大きく 2 つに分けられる。
- ・回答期間は令和 3 年 4 月 1 日～30 日とした。

2 回答状況について

- ・調査依頼文を送付した 11 団体を通じ 22 件の回答があった。（うち有効回答数 21 件）
- ・20 件の回答のうち、盛岡圏域が 59.1%、県北圏域が 4.5%、県南圏域が 13.6%、沿岸圏域が 13.6%、無回答 9.2%という結果であった。
- ・回答の多くが、医療機関での受診を行っているとのものであり、加えて受診が有用だったとの回答は、77.2%と約 8 割に上る結果であった。

3 回答内容について（概要）

(1) 発達障がい児の受診や診断待機の状況に係ること

- ・有効回答 21 件のうち、初診予約に係る現在の待機期間において、一番長い期間で 6 か月の待機が生じているとの回答があった。
- ・最初に診察を受けた時の年齢については、幼児期（3～5 歳）が 36.4%で最も多く、次いで乳児期（0～2 歳）が 27.3%という結果であった。

(2) 本人・保護者等の支援ニーズに係ること

- ・発達支援や相談支援の利用先については、「相談支援事業所」、「岩手県発達障がい者支援センター」、「放課後等デイサービス」、「児童発達支援」が多く、有用だったと思う支援についても、同様の結果であった。

(3) 本人及び保護者の支援ニーズ【自由記載】

ア 相談・助言を受けられる機関の充実について

- ・本人が興味のある仕事に実際に携わっている方から直接話を聞くことができたり、繋がることのできるような支援体制が欲しい。
- ・本人や保護者のあらゆる相談を聞いてもらえる場所、成長してからも相談しやすい場所がほしい。

イ 当事者又は保護者同士の交流の促進について

- ・同じような境遇の方の集まり（ピアサポートのような）がまだまだ少ないため、もっと増えてほしい。

ウ 社会・周囲の理解の促進について

- ・ 発達障害により少し変わった様子があっても笑わないで見守ってほしい。
- ・ 未だ、障がい児・者への偏見、理解不足の状況が見られるが、様々な人がいるということを理解し、お互い助け合うことができるような街になってほしい。

エ 就学・進路相談に関する支援の充実について

- ・ 学校現場における障害特性や対処法の理解の促進をもっと促してほしい。
- ・ 障害がある＝特別支援学校ではなく、もっと幅広く見守り、学ばせてほしい。

オ 就労支援・職業訓練の充実について

- ・ まだまだ雇用先の選択肢が少ないため、障害のある方でも普通に働ける場所の充実を図ってほしい。
- ・ 本人の強みを伸ばしてくれる場所、本人に合う仕事を見つける手助けがほしい。

カ 地域参加・交流の促進について

- ・ 地域参加もしていきたいが、未だに偏見の目で見られることも多いので改善してほしい。
- ・ 個人レベルでの努力もしているが、限界もあるため、地域参加の機会の確保をしてほしい。

キ 経済支援の充実について

- ・ 親元を離れた場合でも、生活が困難な場合のサポートや、必要に応じた支援金等のサポートの充実を図ってほしい。
- ・ お金の管理や生活力などの面で、家族の負担を軽減するようなサービスの充実を図ってほしい。